

交渉の議事要旨

(開催日時)

平成26年3月24日(月) 16:00~16:58(58分間)

(開催場所)

留萌開発建設部 第4会議室

(出席者)

当局側(留萌開発建設部)

許士 裕恭(留萌開発建設部長)、新井 龍也(留萌開発建設部次長)、
関 新次(留萌開発建設部次長)、折原 靖夫(留萌開発建設部次長)、
河田 和浩(総務課長)

職員団体側(全北海道開発局労働組合留萌支部)

打田 智美(執行委員長)、村上 雅彦(副執行委員長)、渡邊 和直(書記長)、
江畑 誠子(執行委員)、亀口 裕一(執行委員)

(議題)

- ・ 当部における超過勤務の縮減について
- ・ 当部職員の健康安全管理について
- ・ 当部におけるパワーハラスメントが行われない職場環境の整備について

(要求書に対する回答)

要求書のうち、取り決めた交渉議題について回答(別紙のとおり)。

(発言概要)

【議題1：当部における超過勤務の縮減について】

(職員団体) 部門別・課所別・個人別に超過勤務時間数に差があり、業務の平準化が図られていないのではないかと。

(当局) 業務量や業務の困難度に応じた業務処理体制の構築に努めるとともに、特定の職員等に業務が集中しないよう、今後も管理者に対し指導していきたい。

(職員団体) 超過勤務縮減のためには職場内のコミュニケーションが重要であると考えますが、管理者と職員との意思疎通が不十分なのではないかと。

(当局) 管理者に対しては、職員との意思疎通を図った上で、業務の適切な進行管理を行うよう、引き続き指導の徹底に努めていきたい。

【議題2：当部職員の健康安全管理について】

(職員団体) 過去にメンタル系疾患により長期療養した職員について、再発防止に努めていただきたい。

(当局) 日頃から職員の勤務状況及び健康状態の把握に努め、職場におけるストレス要因の軽減等、再発防止に努めていきたい。

(職員団体) 自操運転時における安全管理を徹底していただきたい。

(当局) 自操運転の命令に当たっては、運転者の健康状態など必要な確認についてしっかりと行うよう、引き続き指導を徹底し、安全な運転の確保に万全を期したい。

【議題3： 当部におけるパワーハラスメントが行われない職場環境の整備について】
（職員団体）パワーハラスメント防止対策として、どのような取組を行っているのか。
（当局）視聴覚教育等を通じ周知・啓発活動に努めてきたところであり、今後もパワーハラスメントが行われない職場環境づくりに努めていきたい。

※文責は留萌開発建設部当局（今後修正等があり得る。）

交渉議題に関する回答メモ

1. 当部における超過勤務の縮減について

超過勤務の縮減については、当局としても重要な課題であると考えている。

本来、業務は勤務時間内で処理することが望ましいと考えるが、業務の性質や時期によっては、超過勤務が避けられない場合がある。

当局としては、職場の超過勤務の実態等を踏まえ、業務運営の一層の簡素・効率化を図り、業務の円滑な進行管理を行うとともに、週休日及び休日出勤の縮減、定時退庁日における定時退庁の励行など、超過勤務の縮減に努めてきたところである。

また、超過勤務を命ずる場合には、職員の健康を害しないように考慮しているところであり、今後とも、この点に十分配慮するとともに、きめ細かな業務の進行管理に努めるよう、管理者を指導していきたい。

2. 当部職員の健康安全管理について

健康安全管理は、職員が職務を遂行する上で重要な問題であると認識しており、当局としては、健康安全管理計画に基づき、各種の健康安全教育のほか、定期健康診断等による健康管理、職場の安全点検等による安全管理を計画的に推進し、職員の健康の保持増進と安全管理を図っているところである。

平成26年度の計画においては、昨年度に引き続き、生活習慣病対策、長時間の超過勤務を行った職員の健康管理、公務上災害の防止及び心の健康づくりの4つを重点に取り組むこととしている。

なお、心の健康づくりについては、カウンセラーや健康管理医（精神科医）による心の健康相談の活用や管理者に対するメンタルヘルス教育の徹底を図り、予防に努めるとともに、人事院の指針に沿った円滑な職場復帰支援策を進めていく考えである。

3. 当部におけるパワーハラスメントが行われない職場環境の整備について

パワー・ハラスメントについては、一般的に、職員の人格と尊厳を侵害し、勤労意欲を減退させるなど、職場内秩序を乱し、職場の活力低下を招く要因となるものであり、その防止に努めていく必要がある。

この防止については、管理者・職員の双方において、パワー・ハラスメントに関する問題意識と具体的な行為に関する認識を共有することが重要であり、各種会議等の機会を捉えて周知啓発を図り、良好な職場環境づくりに努めていく考えである。